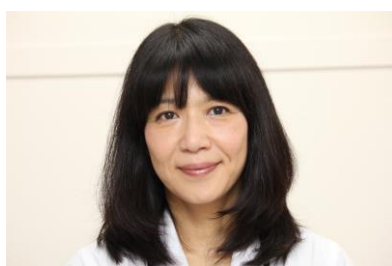




奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 8

ご挨拶

教授 緒方奈保子



今年も1年が終わろうとしています。今年は円安ドル高が急に進みました。海外旅行にはちょっとお財布が心配になります。消費税増税も延期になったとしても近い将来あがるでしょう。東北の震災復興も大変なのに御嶽山の噴火による悲劇が起こったり、バター不足になったり？と世情は不安定です。

日本の医療をとりまく環境もきわめて不安定です。眼科に対しての保険診療報酬制度の風当たりも強いように思えます。また抗 VEGF 薬が認可され広く使われるようになってから、薬剤費の負担が多くなっています。シカゴで開催された American Academy of Ophthalmology の retina subspecialty day に参加しましたが、欧米では費用の面で Bevacizumab の使用が一番多いことにちょっとびっくりしたり、納得したり、でした。

眼科医不足が言われてはや10年、新入局の眼科医がやや増加したと統計では出ているようですが、実際の現場ではそのような実感はなく慢性の眼科医不足が続いています。地方では深刻で、どこかに眼科医が落ちてないか？！と毎日思っております。人手不足の中で問題になるのが救急医療体制です。少人数の医局で県下の眼科救急医療を一次救急からすべてを引き受けるなんて事などできるはずありません。しかし、救急車でやってくるのがきのうの朝からあった結膜下出血なんてのは日常茶飯事です。このようなことでは本当に必要な救急医療に支障が出てしまいます。

このような厳しい毎日ですが、新入医局員3人がそろって臨床眼科学会で発表しました。これからも研修を積んでどんどん全国学会にも参加して行って欲しいものです。

講演会

第8回万葉フォーラム

平成26年10月11日に橿原ロイヤルホテルで第7回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。今回は特別講演として札幌医科大学教授の大黒浩先生にお越し頂き、「眼内炎症の後始末の機序：3つの眼科ミステリー」というタイトルで御講演頂きました。講演では前房出血や前房蓄膿の吸収過程において脂質分解酵素であるリソゾームホスホリパーゼA2(LPLA2)が関与していることをたくさんの方のデータをお示しになりながら詳細に御説明頂きました。他にも糖尿病網膜症の発症に、転写因子として働くタンパク質複合体であるNF- κ Bが関与していることなどを御解説頂きました。先生の研究者としての考え方や医局運営の方法についてもお話頂き、眼科医として大変勉強になりました。



第5回 AMD フォーラム in 奈良

平成26年10月24日に厳樞会館にて第5回 AMD フォーラム in 奈良が開催されました。今回は特別講演として長崎大学眼科学教室教授の北岡隆先生にお越し頂き「過去・現在・未来のAMD治療」というタイトルで御講演頂きました。今回の講演では北岡先生が以前行っておられた黄斑移動術などについて詳しく解説して頂きました。現在のAMD治療は抗VEGF薬の硝子体注射が中心となっていますが、黄斑移動術などの外科的治療のこれからの可能性についても御説明頂きました。実際の手術動画も提示して頂き、これまで見たことがない映像が多く大変勉強になりました。



第3回 NOSI の会

平成26年10月4日に橿原ロイヤルホテルで第3回 NOSI (Nara Ocular Surface and Infection) の会が開催されました。NOSI の会は眼表面疾患や眼感染症について基礎的なところから学んでいこうという趣旨の会で、今回で第3回となりました。今回は特別講演として医療法人明和会宮田眼科病院の子島良平先生にお越し頂き、「術後感染症対策」というタイトルで御講演頂きました。白内障手術、緑内障手術、屈折矯正手術、角膜移植、硝子体手術など様々な眼科手術における術後感染症の誘因や起因菌、術前対策、術中対策、術後対策、抗菌薬の使い方などについて詳しく御説明頂きました。様々なデータをお示しになりながら分かりやすく御説明頂き、大変勉強になりました。



学会賞受賞

第34回日本弱視斜視学会賞（中川賞）受賞

第26回日本神経眼科学会学術賞受賞 に寄せて



西智（平成14年奈良県立医科大学卒）

今回、小児の遠視性不同視弱視症例の脈絡膜厚を測定し、健常群との比較を行った論文（Choroidal thickness in children with hyperopic anisometropic amblyopia. Br J Ophthalmol. 98:228-32, 2014）に対して 第34回日本弱視斜視学会賞（中川賞）を受賞しました。弱視眼では中心窩下脈絡膜厚が最も厚く、健眼や健常群と脈絡膜厚の構造が異なっていることを報告した論文です。このような名誉ある賞を頂けたのは

身に余る光栄なことで、日頃の先生方のご指導のお蔭と大変感謝しております。

また、視神経低形成の症例に関する論文（Case of unilateral optic nerve hypoplasia with contralateral optic pathway hypoplasia. Neuro Ophthalmology 37:113-116, 2013）に対して第26回日本神経眼科学会学術賞を受賞しました。この論文は片眼の視神経乳頭低形成を伴う Septo-optic dysplasia 患者における視放線から視神経までの全体の経路の詳細を、MRI と拡散テンソル画像にて評価しました。片眼の視神経低形成を認める



対側の視放線の減少を認め、視交叉では左右差は無かったことがわかりました。放射線科や小児科との協力

で得られた所見であり、このような賞を頂けたのも他科との連携が実を結んだ結果と大変感謝しております。

今後もより一層気を引き締めて臨床、研究に必要とされる医師



になれるよう精進していききたいと思います。



業績

益田尚典（平成 23 年奈良県立医科大学卒）



この度、Clinical Ophthalmology に論文が掲載されることになりましたのでご報告させていただきます。論文の内容は、眼白子症に黄斑下出血を伴った症例についてです。眼白子症は強度近視を合併することが知られておりますが、今回それに伴い単純出血を起こしていました。眼白子症に黄斑下出血を伴う例は珍しく、本邦の報告も一例のみであ

り、英文では報告がなかったため今回報告しました。

今回このような論文を掲載することができたのは、緒方教授・指導医の長谷川先生を始め医局の先生方のご助力のお陰です。感謝の念に堪えません。

日々絶え間なく研鑽を積んでおられる先生方に一刻も早く追いつけるように、これから努力して行きたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



学会報告

この度神戸のポートピアで開催されました第 68 回日本臨床眼科学会で入局 1 年目の 3 名が初めての発表を経験し、また入局 3 年目の山下先生が第 62 回日本臨床視覚電気生理学会に参加しましたので、一言ずつコメントを頂きました。

第 68 回日本臨床眼科学会に参加して

治村寛信（平成 24 年奈良県立医科大学卒）

今回初めて臨床眼科学会に参加させて頂きましたので報告させて頂きます。

眼科学会への参加は初めてでしたのでその規模の大きさに驚きました。会場入りしたのが遅かったのがありますが、聞きたい講座も締切りとなっておりその盛況ぶりに圧倒されました。



僕自身もブリモニジン点眼における視神経乳頭血流変化についてポスター発表をさせて頂き、大変良い勉強になりました。今回の発表は 1 から 10 まで指導医の岡本先生に見て頂き、なんとか発表できたという感じでした。自分自身ではまだまだ何もできず、精進しなければならないと思われました。この経験を今後の臨床に役立てて真摯に取り組んで行きたいと思います。

中尾重哉（平成24年愛知医科大学卒）

今回、神戸で行われました第68回日本臨床眼科学会に参加させて頂きましたので報告させて頂きます。眼科医として初めての発表ということもあり、準備の段階から多くの先生方に助けて頂き、なんとか発表を終えることが出来ました。今回、日光黄斑症の症例という、あまり日常診療では診ることがない疾患を学術展示で発表させて頂きました。日食の注視によって、光化学作用による視力及び視野障害を来す疾患です。発表するに辺り、疾患のみならず各種検査の勉強も改めてさせて頂く貴重な機会を与えて下さったことに感謝しております。今回の経験で得たことを、これからの臨床や今後の発表等に生かしていける様に精進して参ります。

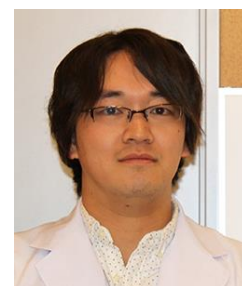


水澤裕太郎（平成24年奈良県立医科大学卒）

～ゆうたろう、がっかいにいく～の巻

おはようございます。冬もますます寒くなってきたこの頃、みなさんいかがお過ごしでしょうか？さてさて、私、ゆうたろうは臨床眼科学会なるものにこのたび行ってまいりました。内容は・・・抄録を参照ください。

来年度も合言葉はゆうたろう！やったろう！！です。お忘れないよう・・・(° _ °)



第62回日本臨床視覚電気生理学会に参加して

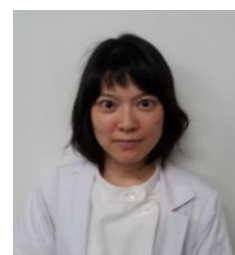
山下真理子（平成22年奈良県立医科大学卒）

今回私は、東京の両国KFCホールで行われた第62回日本臨床視覚電気生理学会に参加させて頂きましたので報告させて頂きます。日本臨床視覚電気生理学会への参加は今回が初めてでしたので、どのような学会か少し不安でしたが、会場ではすべての発表

に対してさかんに議論が行われており、大変勉強になりました。

とりわけ RETeval というフリッカー網膜電位計に関する報告

がたくさんありました。フリッカー網膜電位計は無散瞳で検査を行うことが可能であり、また皮膚電極仕様であるため、局所麻酔薬の点眼やコンタクトレンズを使用する必要がありません。さらに手持ち式であり、両眼5分程度で検査は完了します。このようにフリッカー網膜電位計は患者の身体的負担が少なく、また軽量であるため、今後ますます臨床の場に使われる場面が増えると思われました。今回私は、多局所視覚誘発電位（mVEP）測定を行った両鼻側半盲の一例について症例報告をしました。視野検査では両鼻側半盲を認めましたが、他覚的視野評価法として mVEP を施行したところ異常を認めず、心因性視野障害の診断に有用であったという内容です。この経験を生かして今後の臨床に役立て、真摯に取り組んで行きたいと思います。



病院紹介

奈良県西和医療センター

部長 福原 潤

当院は平成 26 年 4 月から県立三室病院が独立行政法人化され、上記の名称に変わりました。名称が変わるとともに院長も交代し、内部機構も若干変更されました。

眼科は新院長の意向で外来を今までの 3 分の 2 に減らされ、開院当初からあった高価な大型備品を廃棄処分させられました。そのため従来対応してきた眼科全般の診療から、斜視弱視を含む小児眼科・ERG・EOG・ENG などの電気生理・神経眼科などの診療を除外せざるを得なくなりました。手術顕微鏡も新しくするからとのことで 20 年来愛用してきたツァイス OPM-6 を廃棄するよう迫られております。さらには未熟児診療のためのキセノン光凝固装置も廃棄処分されました。このような状況から、毎日白内障と緑内障の診療のみを細々と続ける現状であります。

これまでの年間手術件数は白内障 500 件・網膜硝子体 130 件・涙道 2 件・眼瞼下垂 10 件・斜視 2 件・緑内障 50 件・眼瞼および眼窩腫瘍 10 件・レーザー光凝固 200 件です。



奈良県立医大 眼科外来診察表

	月	火	水	木	金
1 診	松浦 (網膜硝子体)	上田 (網膜硝子体)	交代制	緒方 (網膜硝子体)	交代制
2 診	丸岡 (角膜)	岡本 (緑内障)	専門外来	峯/大萩 1,3,5 週/2,4 週	専門外来
3 診	西野	西 (小児眼科、神経眼科)		増田	
4 診	山下	長谷川(網膜硝子体)		小林	
5 診	福島			益田	

- ・専門外来は完全予約制です。
- ・初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診 するようお願い致します。
- ・地域連携の予約は月・火・木が 4 名、水・金は 2 名可能となっております。

編集後記

平素は、奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き誠に有難うございます。諸先生方のご協力によりニュースレターも今回で 8 回目の発行となりました。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からご投稿をお待ちしています。もちろんテーマは自由です。日頃の思いを是非ご投稿下さい。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまで何卒よろしくお願い致します。

メールアドレス smaruka@narmed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 丸岡真治